

12/21 日南小へドローン贈呈

兵庫県神戸市の一般社団法人ミルトホールディングスから日南町へ、小型軽量ドローン350台が寄贈されました。これは、昨年9月に町とパートナーシップ協定を締結した佛山陰合同銀行の仲介で実現したものです。寄贈されたドローンは、日南小学校で活用されることとなり、日南小学校で贈呈式が行われました。



日南小学校ではこのドローンを授業などで活用し、子どもたちが最新の技術に触れる機会をつくり、町の将来を担う人材の育成に役立てていきます。贈呈式に出席した青戸教育長は、「ドローンは農業や防災など、



いろいろなことに使える。これからドローンがみなさんの生活にどのように活かせるか考えてほしい」と話しました。

1/5 新年恒例！書き初め教室

日南小学校の児童を対象とした体験活動「にちなんっ子クラブ」の一環として、恒例の書き初め教室が行われました。この日は赤木真理さん（宮内）を講師に迎え、学年ごとの題材で書き初めに挑戦しました。1・2年生は、基本的な筆の使い方などを教わったあと、それぞれが「うさぎ」の文字を半紙に書きました。3～6年生は「明るい心」「美しい空」「強い決意」などの題材に挑戦し、一筆ずつ丁寧に筆を運んでいました。



12/21 野口忠實さん 厚生労働大臣表彰

多年にわたって戦傷病者、戦没者遺族、引揚者等の援護事業に携わり、功績が顕著な者に対し厚生労働大臣が表彰する「援護事業功労者 厚生労働大臣表彰」を野口忠實さん（茶屋）が受賞しました。野口さんは12月7日に東京都で行われた表彰式に出席し、12月21日に受賞の報告のため中村町長を訪問しました。

野口さんは、山上校区遺族会、日南町遺族連合会、日南町遺族会、日野郡遺族連合会の要職を歴任し、戦没者遺族の援護事業に尽力した功績が評価され、この度の受賞となりました。



12/27 美味しい珈琲の淹れ方、選び方

生涯学習講座にちなん町民大学の講師として、兵庫県神戸市の萩原珈琲から講師を招き、「美味しい珈琲の淹れ方、選び方」と題して講座を開催しました。参加者は、コーヒー豆の種類とその特徴について話を聞き、実際にコーヒーを淹れる体験などを通しておいしいコーヒーの淹れ方を学びました。

家庭でおいしいコーヒーを淹れるポイントは、豆が湿る程度にお湯を注いだあと蒸らすことや、中心に円を描きながらお湯を注ぐこと、コーヒーがカップに落ち切らないうちにドリッパーを外すことだそうです。

こうすることによりアクが出ず、渋みのないコーヒーとなります。みなさんも、ご家庭でコーヒータイムを楽しまれてはいかがでしょうか。



12/1・9 小学生がまちの未来を考える

日南小学校5・6年生の児童が、「日南町の未来を考える」と題し、発表会を開催しました。発表会では、12月1日には中村町長と青戸教育長、12月9日には町議会議員を小学校へ招待し、7つのグループに分かれてまちづくりへの提案を行いました。児童たちは、「町の特産品を使ったイベント」「HPや動画などを活用した町の宣伝方法」「オオサンショウウオが住める環境を守る」など、それぞれにテーマを決めて提案内容をまとめ、自分たちが作った発表用の動画を使いながら工夫して発表していました。

特産品を使ったイベントについて発表したグループは、トマトを活用した「トマフェス」や雪の博物館などのイベントについて提案を行い、「イベントを通して町外の人たちと交流し、笑顔があふれる町にしたい」と発表しました。また、オオサンショウウオが住める環境の保護について発表したグループは、「オオサンショウウオを守ることは自然を守ること。私たちとオオサンショウウオが共存できる町にしたい」と発表し、「子どもたちにできることは限られているので、大人のみなさんも一緒に考えてほしい」とメッセージを送りました。

児童たちの柔軟な発想と希望に満ちた発表に、中村町長は「将来を担う子どもたちの貴重な意見を尊重し、今から実現に向けて努力していきたい」と話しました。



12/17 地域で支えよう大切な人

日南町認知症施策作業部会が主催する日南町認知症啓発映画上映会「地域で支えよう大切な人」が、総合文化センターさつきホールを会場に開催されました。イベントでは映画監督の信友直子さんが高齢の両親を描いたドキュメンタリー映画「ぼけますから、よろしくお願いします。～おかえり お母さん～」の上映と信友さんのミニ講話がありました。

アルツハイマー型認知症を患った母を98歳の父が懸命に介護する日々を、一人娘の信友さんが自身の視点で丹念に映し出したこの映画は、認知症、老老介護、看取りといった日本全体が抱える高齢化社会の問題をありのままに、かつユーモラスに綴っています。イベントには約150人の町民が訪れ、時折涙を流しながら熱心に映画に見入っていました。

ミニ講話では、「最初は父が介護サービスを使いたがらず悩んだが、地域包括支援センターに相談したところ『任せてください』と言ってくれて安心した」「父は、母が認知症になったことを初めは近所の人には隠していたが、しばらくして話すみんな『お互い様』と親身になってくれた」と、家族だけではなく介護サービスや地域の人のおかげで介護をすることができたという経験を、信友さんが話しました。

これからは、認知症になっても認知症と共に生きる、希望をもってその人らしく生きることが大切になります。認知症になった人もそうでない人も、支えあって共に生きることが必要です。



日南町では認知症の相談窓口を設置していますので、地域包括支援センターへお気軽にご相談ください。

12/8 中学生が議会を傍聴

日南中学校2年生の生徒が、社会科の授業の一環で日南町議会定例会を傍聴しました。日南中学校では、生徒たちが行政に興味関心を持ち、まちづくりに参画する意識を持つようになってほしいと、8年前から町議会の傍聴の機会を設けています。

この日は一般質問が行われ、日南小・中学校のシアトル派遣事業や日南スポーツクラブ（仮称）についての、櫃田洋一議員からの質問と、それに対する青戸教育長の答弁がありました。生徒たちは初めて入る議場に少し緊張しながらも、やり取りを真剣に聞き入っていました。



12/16 中村町長 2期目の初登庁

11月27日に行われた日南町長選挙で当選した中村町長が、この日初登庁しました。中村町長は庁舎正面玄関に集まった職員から拍手で迎えられて花束を受け取り、2期目の中村町政がスタートしました。

中村町長は初登庁のあいさつで「2期目の公約に掲げた持続可能なまちづくりのための『共創・協働で進むまちづくり』を推進したい。町の特色を活かした取り組みを進め、町民自らが誇れる町を目指したい」と話しました。

山本議長は、「1期目は急逝された増原前町長の町政を引き継がれた4年間であったが、2期目はリーダーである中村町長を職員全員が支えて、町長の目指すまちづくりに全力を尽くしてほしい」とエールを送りました。

